

信濃毎日新聞

1873年(明治6年)創刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市南県町 657番地
電話(026)
受付 236-3000 編集 236-3111
販売 236-3310 広告 236-3333
松本本社 〒399-8711
松本市宮田 2番10号
電話(0263) 編集 25-2151
販売・広告・事業 25-2153
©信濃毎日新聞社 2016年

2月3日(水)

冷凍ギョーザ シンガポールへ輸出 信栄食品、直接貿易で海外開拓

信栄食品がシンガポールへのコンテナ初出荷を記念して松本市内で開いた式典



松本で初出荷式典 現地の声 製品に反映

冷凍ギョーザ製造の信栄食品(松本市)は、国内商社を通さずシンガポールの商社と直接取引する形で同国への輸出を始めた。商社に払う手数料を削減し、海外と直接つながることで現地の声を製品開発に反映しやすくする。人口減少で国内市場の縮小が見込まれる中、直接貿易で海外市場の開拓を加速する。

信栄食品によると、シンガポールの中国系商社ハーン・トレーディングと契約を結んだ。業務用食品卸が主方の同社はシンガポール内にあるレストランの85%と取引があり、一

部は小売業にも卸している。信栄食品から仕入れる商品も8割が業務用、2割が小売り用。ハーン社の販路を通じ、インドネシアやマレーシアにも出荷されるという。

商品は、冷凍機能付きのコンテナに積み込んで輸出する。今回はハーン社向けに「無添加野菜餃子」と「サーモン餃子」の2商品を新たに開発した。シンガポールで輸入規制がある肉の代わりにそれぞれ豆腐、サーモンを使用。信栄食品は2年前から同国の日本食見本市に出展し、現地の味覚に合う商品開発を進めてきたという。

松本市の食品運送会社で2日、初出荷の式典を開いた。月1回の輸出でコンテナ1台に約22万個(約300万円分)のギョーザを積み、年間3600万円程度の売り上げを目指す。

信栄食品の2015年9月期の売上高は約9億円。オーストラリアを手始めに13年に本格化させた輸出総額はまだ1千万円に満たない。神倉藤男社長は「年間輸出額は2年後に1億円が目標。日本の食への信頼などを追い風に、将来は全世界に供給したい」としている。